

kigokoro

EIDAI Corporate PR Magazine Spring 2022 / vol.11



kigokoro

Spring 2022 / vol.11

第11号 令和4年4月1日発行
編集・発行：永大産業株式会社 事業管理部 広報課
〒559-8658 大阪市住之江区平林南2-10-60 TEL:06-6684-3058 FAX:06-6684-3051

その床、
天然より天然

銘樹 Mokutone
MEIJYU モクトーン

木を活かし、よりよい暮らしを

EIDAI

お客様相談センター

☎ 0120-685-110

[受付時間] 平日・土曜日9:00~18:00(休業日:日曜日、祝日、夏期休暇、年末年始)

永大産業株式会社
www.eidai.com

EIDAI ショールームでお確かめください。

EIDAI SR

検索



施設における共用スペースの開口部に最適

セーフケアプラス 大開口間仕切り吊り戸

2021年1月に発売した「セーフケアプラス可動間仕切り吊り戸」に続き、「セーフケアプラス大開口間仕切り吊り戸」が誕生。最大幅約67mmまでの大きな開口部に対応でき、規格品での選択肢の幅が広がりました。



両側に引き分けて、広い出入り口をつくる「4枚2本引き分け吊り戸」



左右どちらからでも出入りでき、幅広の開口部に対応する「6枚3本引き分け吊り戸」

これまでにない業界最大の枠外幅と豊富なデザインバリエーションを実現

高齢者施設や保育施設などでは、行事を想定して広い共用スペースが設けられます。普段は、この大空間を間仕切って多目的に使うケースが多いようです。こうした用途を考えて、空間そのものを仕切るために発売した製品が「セーフケアプラス 可動間仕切り吊り戸」でした。そして今回、新たに発売した「セーフケアプラス 大開口間仕切り吊り戸」は、このような広い共用スペースの開口部に最適な製品です。

これまでは間口が4mを超えると、規格品がないため、現場に応じて特注生産するのが一般的でした。そこで「セーフケアプラス 大開口間仕切り吊り戸」は、業界最大の枠外幅6756mmまで対応できるようにしました。

製品構成としては、基本的に7タイプの開口アイテムをご用意。いずれも吊り戸でありながら、開閉性能や走行性能を重視して下レールを設けています。さらに、静かに閉まる「両側ファインモーション機構」を標準装備しました。枠外高さは、いずれも最大2500mmまで可能です。デザインはフラットなものから、長方形のスリット、丸窓のついたものに加え、伝統的な文様をあしらったものなど、計6種類あります。色柄は当社の「セーフケアプラス」製品群に対応した7色柄。また防犯性にも配慮し、マスターキー対応での施錠も可能にしました。新たな施設設計に、ぜひお役立てください。

開発者の声

施設設計者のニーズに規格品で応えるという意義。

「間口が3m以上なら、特注でない」と——そんな常識を覆す「セーフケアプラス 大開口間仕切り吊り戸」。企画・開発に携わった3人が思いを語ります。



詳細はこちら



特殊加工を施した幾何学文様など、デザインに特化した製品も新たにラインナップ

今回の製品開発に至った背景には、どのような事情があったのでしょうか。

前田 新しい施設などを建築する場合、我々のような建材メーカーが建具一式を受注することが多いのですが、その1カ所に対応できる製品を持っていないばかりに、丸ごと失注してしまうケースがあるのです。

児玉 施設を建築されるゼネコン等の方々は、手間を省くため極力ワンストップで依頼したいとお考えで、当社はそれにお応えする必要があります。

これだけの広い間口に対応させるために、苦労したこと、工夫したことは。

内海 規格品として、可能なかぎり合理的に設計することです。たとえば、3枚の吊り戸を連動させるタイプだと、荷重の問題はクリアしていたのですが、今回は開口幅が違うので、既存の部品を使いながら、いかに加工を少なくするか、美しく納めるかといったところに苦労しました。

児玉 品番を管理しやすく整理するのも大変でした。既存のパーツを組み合わせるからこそ、品番が複雑になりやすく、しかも、建具なので左右の違いもあります。お客様にも分かりやすく、なるべく品番を増やさないように心がけました。

デザインも豊富です。新たに幾何学文様もラインナップされたようですが。

内海 技術が進み、伝統的な文様、たとえば組子などの格子デザインが、工業的に再現できるようになっていきます。こうした和の要素を取り入れたデザインが、今注目を集め



内装システム事業部 内装商品部 商品開発二課
[左]内海 宏隆 [中]児玉 博基 [右]課長 前田 雄亮

ており、ホテルのような大型物件でも採用されています。当社ではこれまで高齢者の施設向けに、こうした幾何学文様の製品を開発してきました。

児玉 施設で使われる可動間仕切りは、普段は閉めておくシーンが多いため、「壁」としての美しい見え方にこだわっています。新しい幾何学文様のデザインについては、開口幅が広がっても対称性を失わず、美しく見えるよう工夫を施しています。

前田 規格品でこれだけの品ぞろえができたことは、事業主様や設計者様にとって大きなメリットがあると自負しています。これから総合建材メーカーとして、ご要望にお応えできる製品開発を進めていきます。

限られた空間を素早くワークスペースに 「ルルボスリム スリムインデスク」を新発売



詳細はこちら

当社は1月31日に、コンパクト収納の新製品「ルルボスリム スリムインデスク」を発売いたしました。この新製品は新型コロナウイルス感染拡大の影響による在宅ワークの普及で、需要が高まっているワークスペースの設置を想定し、生活動線の妨げにならないよう壁埋め込み式のデスクを設けた省スペース型の収納製品です。在宅ワークだけでなく、お客様の用途に応じてリビングでの学習や趣味を楽しむ場としてもご利用いただけます。



多目的にご利用いただけます



デスクは壁埋め込み式のフラップ型で、使わない時にはユニット内にすっきりと納まり、必要な時にだけ、ワンアクションですぐに使用可能です。

園舎をもっと楽しく、華やかに 「セーフケアプラス イラスト付きドア」を新発売



詳細はこちら

当社が2月1日に発売した新製品「セーフケアプラス イラスト付きドア」は、最大5,600パターンのデザイン・色柄から、お好みのものをお選びいただけるという画期的な製品です。園児に親しまれる園舎となるよう、パステル調の色柄をベースに、かわいい動物や果物、花などのイラストをあしらいました。

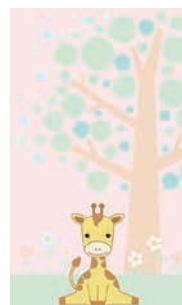
少子化を背景に、経営者様・設計者様などから要望の多い「園舎に個性を持たせたい」との声にお応えしたもので、多様な図柄を簡単に選択して発注できるようにすることで、さまざまな手間を省き、ワンストップ化を図れるようにいたしました。



お好みのデザイン、色柄をお選びいただけます。



①



②



③



EPI活動を通じて、絶え間なく生産性を改善

原単位を5年度間平均で4.4%低減

エネルギー効率の改善や有効利用が、SDGs（持続可能な開発目標）を達成するための重要な取り組みの一つであることは、もはやいうまでもありません。

当社のフローリングの基幹工場である山口・平生事業所は、エネルギーの使用量（原油換算）が年間3000キロリットル以上の工場であり、第一種エネルギー管理指定工場にあたります。

「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」いわゆる「省エネ法」では、エネルギーの使用に係る原単位を年平均で1%以上低減することを目標としています。当事業所は、この目標に沿った省エネ活動の推進に努め、エネルギーの使用に係る原単位を2016年度からの5年度間平均で4.4%低減しました。

こうした取り組みが評価され、当事業所は「令和3年度 エネルギー管理優良事業者等中国経済産業局長表彰」を受賞しました。

EPI活動のほか創エネも

当社にはEPI活動（Eidai Product Innovation）という独自の改善活動があります。グループ会社を含めた全ての生産拠点でこの活動を実施す

過去の受賞記録 (山口・平生事業所)

平成 4年度 (1回目)	エネルギー管理優秀工場 中国通商産業局長表彰
平成 8年度 (2回目)	エネルギー管理優秀工場 資源エネルギー庁長官表彰
平成11年度 (3回目)	エネルギー管理優秀工場 中国通商産業局長表彰
令和 3年度 (今回)	エネルギー管理優良事業者等 中国経済産業局長表彰

ることにより、生産工程での無駄を省き、よりよい製品づくりを目指しています。

活動内容を具体的に挙げると、工場のインフラであるエア配管・コンプレッサーのレイアウト変更、集塵機の運用方法の見直しなどで、総じて地道な作業の積み重ねといえます。

しかし、こうした積み重ねなしには、到底、目標の達成は困難です。

山口・平生事業所は省エネだけでなく、創エネという点で、当社工場の中では最も先進的です。平成5年（1993年）には建材メーカーとしていち早く、再生可能エネルギー（バイオマス発電）の創出に取り組みました。このバイオマス発電により、当事業所で使用する全電力の23〜24%をまかなっていました。また、太陽光発電設備についても、当社工場の中で最も早く導入したのが山



太陽光発電パネル



山口・平生事業所全景

口・平生事業所でした（kigokoro vol.3既報）。こうした取り組みの成果から、当事業所は過去3回（平成4年度、8年度、11年度）にわたって省エネルギーに関する表彰を受けています。

バイオマスボイラーの建設に着手

当事業所では、ここ数年、生産に直接関係しない工場内の照明についてもLED化を推進し、消費電力の抑制を図りました。さらに、令和3年（2021年）の秋からは、ボイラーの更新を目的とした工事に着手しました。この新型ボイラーは木質バイオマスを燃料とし、今年6月に完工する見通しです。この新型ボイラーが完成すれば、さらなる省エネ、温室効果ガスの発生低減が見込めます。

省エネルギーに貢献し、山口・平生事業所が表彰

当社の生産拠点の一つである山口・平生事業所が2月17日、省エネルギー（以下省エネ）に大きく貢献したとして、「令和3年度 エネルギー管理優良事業者等中国経済産業局長表彰」を受賞しました。

日本の原風景

第十一回 静岡県 伊豆の国市
 韮山反射炉



明治時代、日本の近代化を支えた産業革命の世界遺産

さまざまな歴史の舞台になった伊豆の国。ここでは、まるで時間が止まったかのように、あるがままの姿で煉瓦造りの煙突が空へと伸びていた。

伊豆の国市は伊豆半島の北部に位置し、ちょうど半島への入り口にあたる。ここはさまざまな時代における歴史の分岐点だった場所。古くは鎌倉時代に源頼朝が配流され、北条家と出会うことで歴史が大きく動いた。また、北条早雲による伊豆討ち入りが関東での戦国時代が始まったきっかけだと伝えられている。そして幕末期、欧米の列強国に対抗する軍勢力整備の一環として、韮山に反射炉が築かれた。こうして日本の産業革命が始まったのだ。

「明治日本の産業革命遺産」として世界遺産にも登録されている韮山反射炉は、現存する二つの反射炉のうちのひとつにあたる。ここでは主に大砲の製造を行っていた。隣接する韮山反射炉ガイダンス施設では当時、製造していた大砲のレプリカや反射炉が通ってきた歴史に触れることができる。

また、少し歩いたところにある展望台からは、天気が良ければ富士山と反射炉を一望することができる。伊豆半島と言えば、温泉と美しい景観を織りなすジオパークが有名だが、歴史的建造物も多数現存している。たまには、過去へタイムスリップするのはいかがだろうか。



営業所・ショールーム紹介 静岡営業所・静岡ショールーム

よりよい住まいの提案に力を尽くしてまいります

当営業所・ショールームでは、主に静岡県内のお客様を担当させていただいておりますが、中部横断自動車道の開通に伴い、山梨県からお客様がお越しくださるようになりました。また県内では今年、パーティクルボードの新工場が立ち上がってきますが、県東部のビルダー様からは、早くも生産予定である構造用ボードを使ってみたい、とのお言葉をいただいております。刻々と状況は変化しておりますが、引き続き所員全員一丸となって、よりよい住まいの提案に力を尽くしてまいりますので、今後ともさらなるご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



住 所 〒422-8035 静岡市駿河区宮竹2-13-1
 T E L 022-782-1788(代)
 休 館 日 土曜日、日曜日、祝日、夏期・年末年始、5月連休
 営業時間 AM10:00～PM5:00

◇静岡営業所・ショールームスタッフ◇
 写真右から遠藤(中部特販課)、小西、松本、藤野(所長)、豊澤、山川です。

木と俳句

有名な俳人の句に
 詠まれた木について
 ご紹介します。



松

マツ科の針葉樹。北半球に90種以上が存在し、中でも地松と呼ばれる日本のアカマツ・クロマツは建築用材として優秀。我が国には、北欧産の欧州アカマツやアメリカ産のロジポールパインなどが入荷している。

水落す 春田一枚 松の下

村上 鬼城

水を張った田んぼから
 松の木へと目をやる一句

季語は『春田(はるた)』です。春の田んぼは、れんげの花が揺れていたリ、「田起こし」が済んで黒々と耕した土が見えていたりしますが、鬼城の句では『水落す(みずおとす)』。いよいよ田に水を張り、土をならす「代掻き(しろかき)」のタイミングで詠まれた一句です。

一面に潤った田は水鏡となり、木が映り込んでいました。ああ、立派な松の下にあったのだ、と気が付いたのでしょう。「松から田へ」ではなく、「田から松へ」という視点の移動に面白さが感じられます。

耳の病に苦しみながら
 独自の視点を培った村上鬼城

村上鬼城は群馬県高崎市で活躍した俳人です。法学を学び、司法書士の

前身である司法代書人として高崎裁判所に勤める傍ら俳句をたしなみ、正岡子規や高浜虚子から教を受けて頭角を現しました。もともとは軍人になることを志していました。19歳の時に耳の病気で聴力が落ち、軍人をあきらめて司法の道へと進みます。その後、司法代書人の職も耳が原因で一度失いかけたことがありました。晩年は絵を描くことにも目覚め、俳句を多く遺しています。春田と松を詠んだ句にも、鬼城が耳を補うために養った「目配り」が生きているのではないのでしょうか。

神が寄る木として神聖化され、
 日本の建物を支えてきた松

日本では「門松」の風習があるように、古くから松は縁起物として扱われてきました。鬼城の句でも、松の下の水田はまるで豊作を祈るかのようだと、解釈すればいっそう味わい深くなります。

建材としてもマツは使い勝手が良く、特に国産のアカマツやクロマツは強度や耐久性に優れ、建物を支える構造材として重宝されてきました。次第に数が少なくなっているようですが、いつまでも人の手で豊かな松林を守っていききたいものです。



「ゲートスタイルキッチン S-1」は2004年1月にリリースしたロングセラーの製品です。発売から18年を過ぎても、根強い人気のあるミニマルデザインのシステムキッチンと、昨今の流行を取り入れて「見せる」ことを意識して2021年4月に発売した収納棚「ブラックフレームカウンター」のコラボレーションが、LDK空間における「高級感」をさらに引き立てました。

ドラマの美術、舞台衣装等を手掛ける株式会社TBSアクト様のご感想

今回、登場人物のイメージから、生活している部屋はほぼワンルームに近いコンクリート剥き出しの空間が相応しいと考えました。そのためオレンジや紺色などの小物を差し込んで印象付けるようにしましたが、その中で、無機質かつシンプルな「ゲートスタイルキッチン S-1」はセットを最も印象付けるものとなりました。また、「ブラックフレームカウンター」との組み合わせで、さらにドラマの設定に近づけることもできました。私たち美術の仕事はドラマの作画りとともに、どれだけ出演者をその役に入り込ませる環境を整えられるかが勝負ですので、イメージに合う製品が見つかったと、それを最大限まで活かす方法を常に考えるようにしています。

2021年における美術協力

■TBS日曜劇場「ドラゴン桜」(2021年4～6月) 採用製品:フローリング「銘樹ヘリンボーン ブラックウォールナット」



■TBS火曜ドラマ「プロミスシンデレラ」(2021年7～9月) 採用製品:フローリング「銘樹プレミアムク アカシアアンティーク」



■TBS火曜ドラマ「婚姻届に判を捺しただけですが」(2021年10～12月)
採用製品:フローリング「銘樹パーケット エルスパイラル ブラックウォールナット」、壁材「銘樹ブロックウォール ブラックチェリー」



ドラマのセットに採用されたシステムキッチン「ゲートスタイルキッチン S-1」と収納棚「ブラックフレームカウンター」

■ドラマのセットは高級マンションの一室という設定で、「ゲートスタイルキッチン S-1」は、シンクとガスコンロの調理台(幅2,400mm)に、テーブルカウンター(幅2,400mm)を組み合わせた超ロングサイズのキッチンとして登場いたします。さらに窓際、壁際に沿って「ゲートスタイルキッチン S-1」のカウンター収納(幅2,970mm)が設置されています(画像上)

■「ブラックフレームカウンター」は、キッチンのシンクの真上(天吊りタイプ)と、開口部(窓)の上部と真横の壁面(壁吊りタイプ)の収納に用いられています(画像下)



このたび、お客様に当社製品の魅力をお伝えしようと、2021年からテレビドラマへの美術協力を再開いたしました。1月から3月まではTBS火曜ドラマ「ファイトソング」にシステムキッチン「ゲートスタイルキッチン S-1」と収納棚「ブラックフレームカウンター」をご採用いただきました。今回はこうしたドラマのセットにおける事例をご紹介します。

当社では近年、テレビドラマへの美術協力を通じて、魅力ある製品情報をお客様に発信し続けております。

20世紀はまさに戦争の時代でした。21世紀になれば地域的な紛争は残っても、人類共通の脅威は気候変動や疫病になるだろうと、誰もが予想していたでしょう。しかし、それがものの見事に否定されたかたちとなりました。連日、テレビやインターネットを通じて伝えられる悲惨な光景を目の当たりにして、ただただ、怒りや虚しさを感じるばかりです。

当業界に目を移すと、1954年にロシアから木材輸入が再開されて以来、北洋材は米材や南洋材ほどではないにしろ、わが国の木材産業の一角を占めてきました。ロシアのイルクーツクやプラスタンには日口合併企業もあります。今後ロシアへの経済制裁がどのように影響してくるのかはわかりませんが、約70年続いた歴史に対しても、ここに至り大きな転換点を迎えることになるのでしょうか。

今回は造作材（IP＝インテリアパーツ）の基材および化粧材の変遷についてご紹介します。

表面化粧材は最終的にオレフィンシートへ

前回このコーナーで幅木、廻り縁などの化粧材、あるいはドア枠、窓枠といった枠材のことを当社では「造作材」と言わず、IP（＝インテリアパーツ）と呼ぶことについて触れました。

このIPが初めて製品カタログに掲載された1983年当時、造作材は無塗装品を大工技能者が現場で塗装するのが主流でした。

トータルコーディネートを推進したい住宅会社は当社に対し、①現場ごとに塗装ムラが生じるようなことは避けたい②現場での省施工化を図るため、プレフィニッシュすなわち、すぐに取り付け可能な状態で納品してほしい、と希望を伝えてきました。これに対し当社は、用途に応じて異なる構成のIPを用意しました。

洗面所や脱衣室、戸当たりなど高性能が要求される場所には、集成材に挽き板（厚さ5mm以上）で化粧した製品が無垢材を、また寝室や居間などの幅木や廻り縁など、それほど性能を要求されない場所には、平行合板もしくは集成材をツキ板（厚さ0.25mm）で化粧した製品をご提案しました。

造作材の工業化の第一歩と自信を持って進めましたが、最初は既存の木材建材ルートのお客様への配慮から、東京、名古屋、大阪の三大都市に限って取り扱う形を採りました。

その後IPの品番が増えるにつれ、挽き板やツキ板で化粧した製品では、生産が追いつかない（生産性が上がらない）という問題に直面しました。そこで当社は1986年ごろから次第に、当時流通していた塩化ビニルのシート（以下塩ビシート）を化粧材に採用し始めました。

塩ビシートは耐久性、難燃性に優れ、また加工性もよく、IPのイメージを損なわなかったため、仕上がり均一さをご要望のお客様にとって最適の素材といえました。

ただし、木材加工に絶対的な自信を持っていた開発陣や生産現場からは、挽き板やツキ板といった木質素材ではなく、化学的な素材を用いることに対し、当時多少なりとも抵抗はあったようです。これ以降、化粧材はしばらく塩ビシートの時代が続きましたが、



同柄、同色で揃えたインテリアパーツ



MDFを基材に用いた出窓用カウンター

IPの基材は合板からMDFへ

一方、当社のIPの基材は前述したように、当初は集成材、平行合板、無垢材でした。

しかし、1988年にそれまで別扱いだったカウンターをIPに組み入れたことで、基材にパーティクルボードが加わりました。ちなみに、その頃当社はカウンターの基材に、集成材、合板、そしてパーティクルボードを用いていました。

グループ会社を含め、国内3カ所にパーティクルボードの生産工場を有していた当社は、さまざまな部材について可能な限り、パーティクルボードでの置き換えを目指していました。

しかし加工性や仕上がりが感などの点では、どうしてもMDFに及びませんでした。

当社は1993年、一部のカウンターの基材に初めてMDFを使用し、その後幅木や廻り縁へと展開していきました。また1995年には、日本製紙株式会社との合併で、MDFの生産会社「エヌ・アンド・イー」を立ち上げました。

2022年は激動の変化対応が求められる

緊迫化している世界情勢、コロナ禍を契機とした価値観の変化、そして物価の上昇が止まりません。日本でも、いよいよ利上げに踏み切るのか？という噂も耳にするようになりましたが、世の中の急激な変化は住宅業界にも大きな影響を与えています。このような中で、住宅業界では①コロナショック、資材不足ショック、価格アップショック、職人不足ショックなど②資材や半導体など問題が続く、価格のさらなるアップ③読めない情勢と先行き不安など、問題が山積しています。

コロナ禍による一時的な需要増の恩恵を受けているものの、私たちが今はとても厳しい環境の中にあることを表しています。将来の住宅需要の減少が予測されるため、2022年は、このような激動を読み、今後を勝ち抜くために抑えておくべきことについて考えてみたいと思います。

脱炭素・省エネ・高性能

前回のテーマでもありましたので割愛しますが、脱炭素社会へ向けた世界的潮流に合わせ法制度の改正もあり、住宅の省エネ・高性能化は急務です。一般の認知も進みますので、**自社がどう対応し表現していくのか、できるだけ早く明確にする必要があります。**

高収益体質

資材・物価が上昇し、利益が上がりづらい状況において、高収益体質を構築することは、さまざまなリスクに対する抵抗力を高めることでもあり、優先的に取り組んでいくべきテーマです。

高収益をもたらすために、一般的には**①売上げを上げる、付加価値をつける ②出費を抑える ③効率を上げる～生産性を上げる、回転率を上げる、回収率を上げることが必要**といわれます。

①②は徹底して取り組む必要がありますが、ここでは③についてまとめます。生産性と効率化を高めるには、**業務の見直し・洗い出しから一連の流れ（業務フロー）をつくり、それぞれの業務内容、そして運用方法の明確化、すなわち業務の標準化・システム化が必要**です。それに合わせてDX（デジタルトランスフォーメーション）を本気で推進し、業務革新を続けていくことです。利便性の高いツールも続々と実用化されており、大きな成果が期待できます。

新顧客創造

今後の需要縮小が見込まれる中、「顧客創造」についても見直しが必要です。新規を求め続けることが難しくなる中で、ここでは特に、既存顧客を起点とした「顧客創造」を提案します。**キーワードは「アンバサダー」**。すなわち、**既存顧客との関係性を進化させ、熱烈ファン（アンバサダー）として積極的な営業支援をしていただくことによる顧客創造**です。マーケット動向がどうなろうと、**不変なのは信頼・評判**です。**既存顧客から「この会社が好き、応援したい」とまで信頼していただくこと**で、紹介に留まらず**口コミ等により、積極的に見込み客を発掘・育成**してくださるような**関係を築くことが、会社の成長発展の近道**にもなります。

個人の情報発信力が高まる今だからこそ効果的な手法として、ぜひ取り組んでください。今回はこの点について深掘りしていきます。